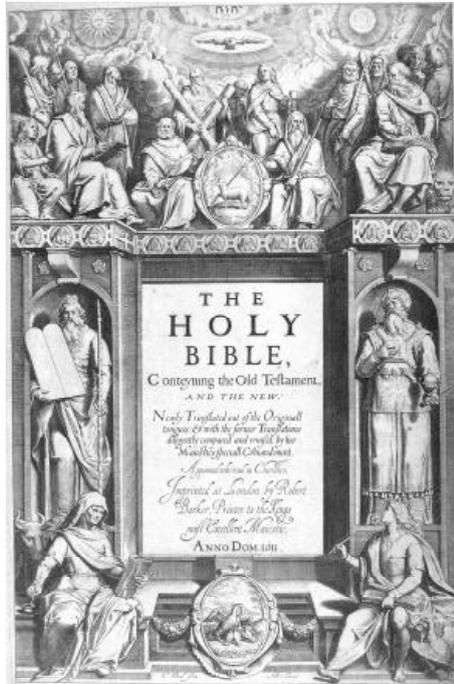
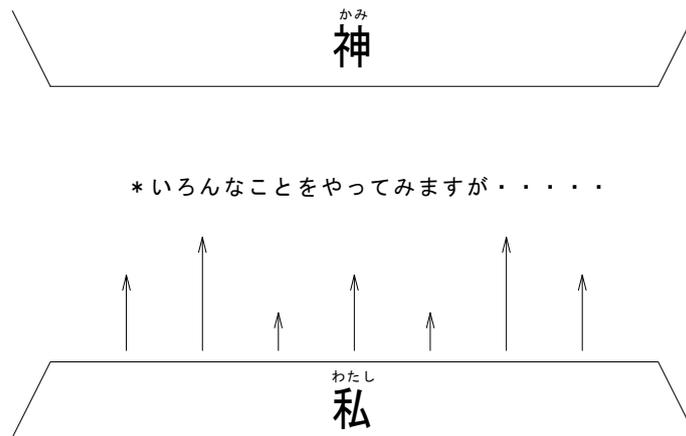


天国 への 招待状

※ だれにでも、いつか、その日がきますが、

死んだら、だれでも「天国」にいける。
—— というわけではありません。



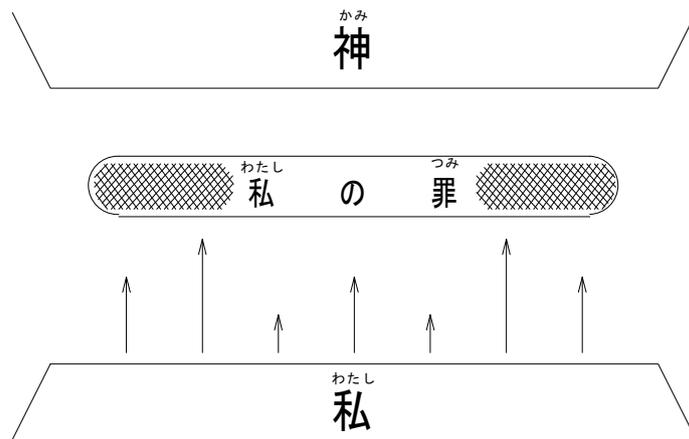


- ※ 次々、ぶつかる困難、苦難。学校や社会の矛盾。人間関係のむずかしさ。無力感。
- ※ 罪の意識にとらわれる。思い悩み。
不品行、好色、エロ・グロ雑誌・本、テレビ・ビデオ・映画・インターネット、姦淫・浮気、
人口中絶、敵意、殺意、悪意、陰口、悪口、
そしり、ウソ、ごまかし、不正、盗み、万引き、
キセル乗り、怒り、暴力、いじめ、差別、非行、
泥酔、度をこした遊びごと、貪欲、高ぶり・
ごう慢、人のせいにする心、わがまま、親への
反抗、約束破り、裏切り、あざむき、不親切、
無慈悲 ……………
(あてはまるものが、ありますか?)
- ※ 人の心を傷つけ、家族を悲しませ、自分をも苦しめていた。



- ※ さまざまなものに 答えを求めた。いろいろな人にも相談した。
文学、芸術、哲学書、諸宗教、信心、奇跡、予言、超能力、オカルト、うらない、経文を唱える、像を毎日 拝む、八十八ヶ所巡り ……
⇒ 心の平安は得られず、むなしさや空虚さは消えない。
- ※ どんなふうに生きていけばいいのか、生きる意味が、わからない。死のう、とさえ思った。
死ぬことが どういうことなのか、死に対する恐怖感が なぜなのか、わからない。
- ※ 自分に言い聞かせ、あきらめていた。
「世の中は、そういうもの。人は もまれて、いろいろ苦勞して 成長していくものだ！」
- ※ 趣味や娯樂で気分をまぎらせる。
心の空洞をうめようとする。
テレビ、ビデオ、携帯、インターネット、映画、買い物、読書、酒、ごちそう・食事、旅行、登山、スポーツ、写真、音楽、観劇、魚つり、温泉、異性交友、スナック、競馬、競輪、ギャンブル、車・ドライブ、
目の欲、肉の欲、持ち物の誇り ……
⇒ あくことのない追求
終わった後の むなしさ や あせり



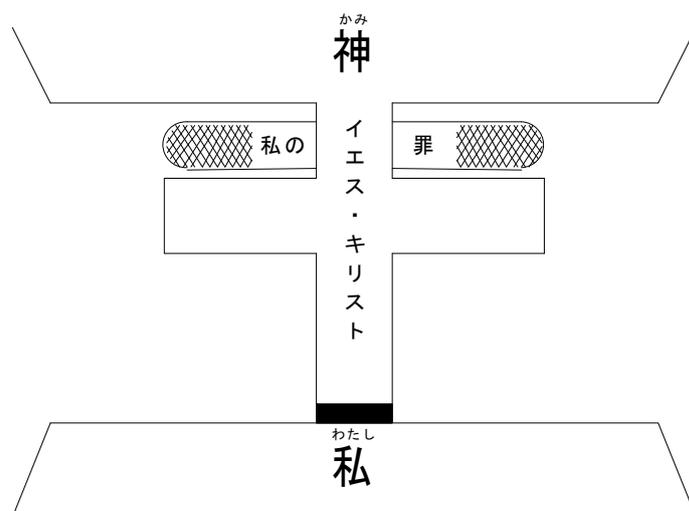


※ 天地を創造された神が、私に生命を与え、愛し、
生かしてくださっているが、私の罪のゆえに、
神 や 神の愛がわからない。

※ まじめに、精いっぱい生きているのに、
罪のゆえに 心の平安はなく、
むなしさ、空虚さ、あきらめ、
罪責感、重荷、思い悩み、
死 や さばきに対する恐れ
生きる意味がわからない。

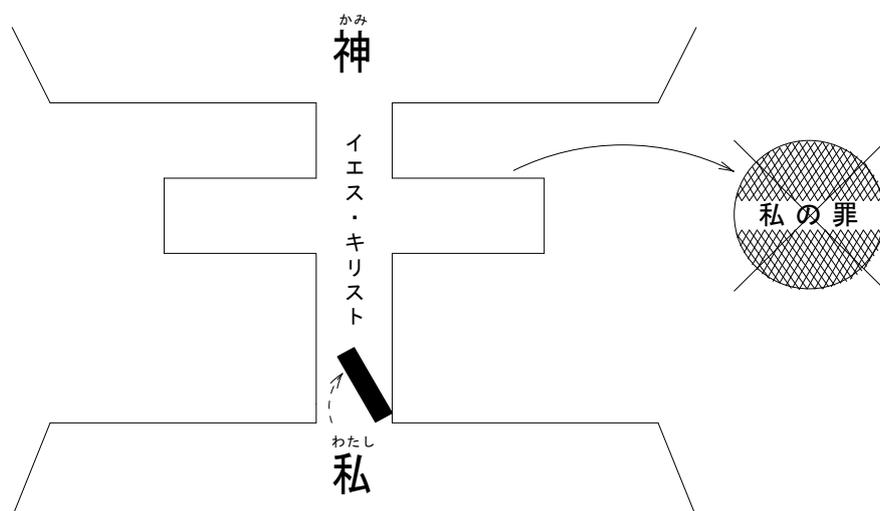


※ ついには、死と、罪に対する神のさばきが
待っている。



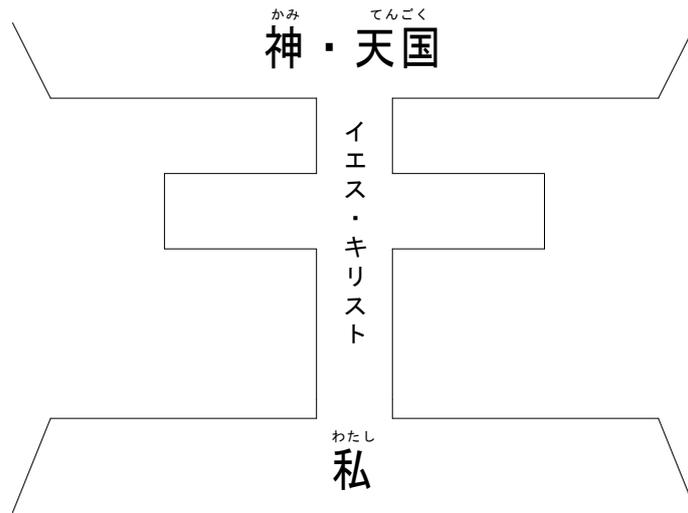
- ※ 私には、罪の問題は 解決できない。
- ※ 神が人となられて、神の御子イエス・キリストが、私の罪を引き受け、私の代わりに さばき（十字架刑）を受けてくださった。
- こうして、神の愛を私に示してくださった。
- ※ 「神は、実に、そのひとり子（イエス・キリスト）をお与えになったほどに、世（私）を愛された。それは御子（イエス・キリスト）を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

（聖書）



- ※ 「見よ。わたし（イエス・キリスト）は、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて、戸をあけるなら、わたしは彼（私）のところにはいって、彼（私）とともに食事をし、彼（私）もわたしとともに 食事をする。」
- （キリストのことば）





※ 心の戸のあけ方

まだ、神のことはよくわからなくても、次のように、祈ってみてください。(両手を組んで)

「天の神さま。私は、あなたの前に、けがれきった罪人(つみびと)です。こんな私は、さばかれてあたりまえですのに、イエス・キリストが、十字架で、私の身代わりになって、さばきを受けてくださり、死んで復活され、その永遠のいのちをプレゼントしてくださることを、ありがとうございます。

今、私は、イエス・キリストを、私の罪と死からの救い主(すくいぬし)、永遠の生命(いのち)を与えてくださる恩人として、信じ受け入れます。こんな私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

今日から、私の人生を、これまでとは違った、有意義で、しあわせなものとしてください。

アーメン。」

(“本当の気持ちです” という意味)



※ イエス・キリストを、そのようなお方として
信じ、心の戸をあけるなら、

- 私は、① 神の前に、すべての罪
(過去・現在・未来)がゆるされ、
罪のない者として扱われ、
さばかれることはない。
- ② 神の家族の一員とされる。
- ③ 地上での生涯を終わったあとも、
天国で、神とともに、また、
先に召された人たちと共に、
永遠の生命をもって、永遠に
生きる。

※ 「神は、彼ら(私)とともに住み、彼ら(私)は、
その民となる。また、神ご自身が彼ら(私)と
ともにおられて、彼ら(私)の目の涙を
すっかりぬぐい取ってくださる。
もはや、死もなく、悲しみ、叫び、苦しみも
ない。なぜなら、以前のものが、もはや、
過ぎ去ったからである。」

(聖書)



※ 心の戸をあけたなら、今日の日を忘れないように、
記録しておきましょう。

今日、私は、主イエス・キリストを、私の罪
と死からの救い主、永遠のいのちをいただいた
恩人として、信じ受け入れます。

20__年__月__日 (時 分)

署名_____

※ このことを、だれか知っているクリスチャンの
人がいたら、電話するなり、手紙を書くなり、
話をするといいですよ。
いっしょに喜んでくださると思います。

■ どなたもおられない時は、TEL.072-682-1887
久保田まで、お電話ください。

※ 私は、今、いわば、生まれたての赤ちゃんです。

— 成長していくために —

- ① 魂の食べ物である『聖書』(神のことば)を、
毎日、少しずつ読みましょう。だんだん、
いろんなことが わかってきます。
- ② 魂の呼吸である『祈り』(神とのお話)を、
毎日、いつでも、しましょう。
「神さま。……」と言って、何でも
神さまに話しかけてみてください。

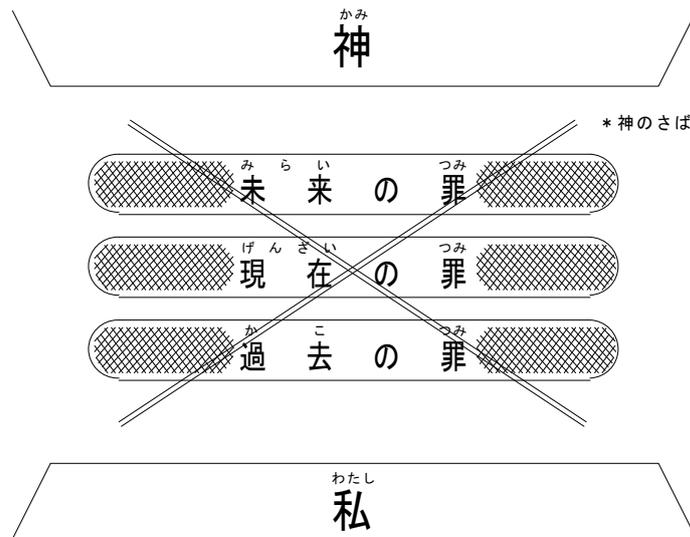
(目を閉じて、両手を組んで)

- ③ 同じ、神の家族である人たちのいる『教会』に
出かけ、日曜日には、いっしょに神を「礼拝」
しましょう。

(賛美歌を歌い、祈り、聖書からのメッセージを聞く。)

- ④ 自分の仕事や、するべきことを忠実に励み、
いつか、『天国』に入れられることを、
楽しみにしていきましょう。





- ※ 心の戸をあけない人は、それも自由。
(“自由意志”が、神から与えられている。)
しかし、自分の罪の責任は、負わなければならない。(あたり前のこと)
- ※ 死と共に、神のさばきを受け、永遠の滅びに入れられる。
(無くなるのではなく、永遠に、昼も夜も、
苦しみを受ける。)
- ※ その時になって、「そんな話は、聞いたことが
ない！」などと、言わないでくださいネ。

-
- 最後まで読んでくださって、感謝します。
このブックレットが、あなたにとって
何の意味もなければ、それまでのこと。
でも、しばらくして、又いつか、くり返し
読んでみてください。

